

車 両 運 搬 確 認 申 請 書

22京大施環化第 4 号
令和 4 年 4 月 22 日

原子力規制委員会 殿

住 所 京都府京都市左京区吉田本町 3 6 番地 1
氏 名 国立大学法人京都大学
学 長 湊 長 博

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第 59 条第 2 項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則第 19 条第 1 項の規定により車両運搬の確認を申請します。



原子力事業者等の区分		使用者	
運搬をしようとする核燃料物質等の種類、性状及び量		種類：照射済実験用核燃料物質 性状： 量： 濃縮度：%以下	
運搬の目的		目的：京都大学核燃料物質使用施設（KUMATORI）の高濃縮ウランを米国に返還するため 出発地：国立大学法人京都大学 複合原子力科学研究所 大阪府泉南郡熊取町朝代西 2 丁目 1010 番地	
運搬予定時期		出発地（国立大学法人 京都大学複合原子力科学研究所） 目的地	
核燃料輸送物に関する説明	核燃料輸送物の種類	BU 型核分裂性輸送物	
	核燃料輸送物の総重量	以下/輸送物	
	収納する核燃料物質等	重量	-U 以下/輸送物（U-235：以下/輸送物）
		放射能の量	以下/輸送物（主要な核種は添付書類 1 の通り）
	使用する輸送容器	名称及び個数	
		承認容器登録番号	
		容器承認書の年月日及び番号	令和 4 年 4 月 21 日 原規規発第 2204213 号
		承認容器として使用する期間	
		外形寸法	直径： 高さ：
	重量		
核分裂性輸送物にあつては輸送制限個数			
積載方法又は混載の別	専用積載		



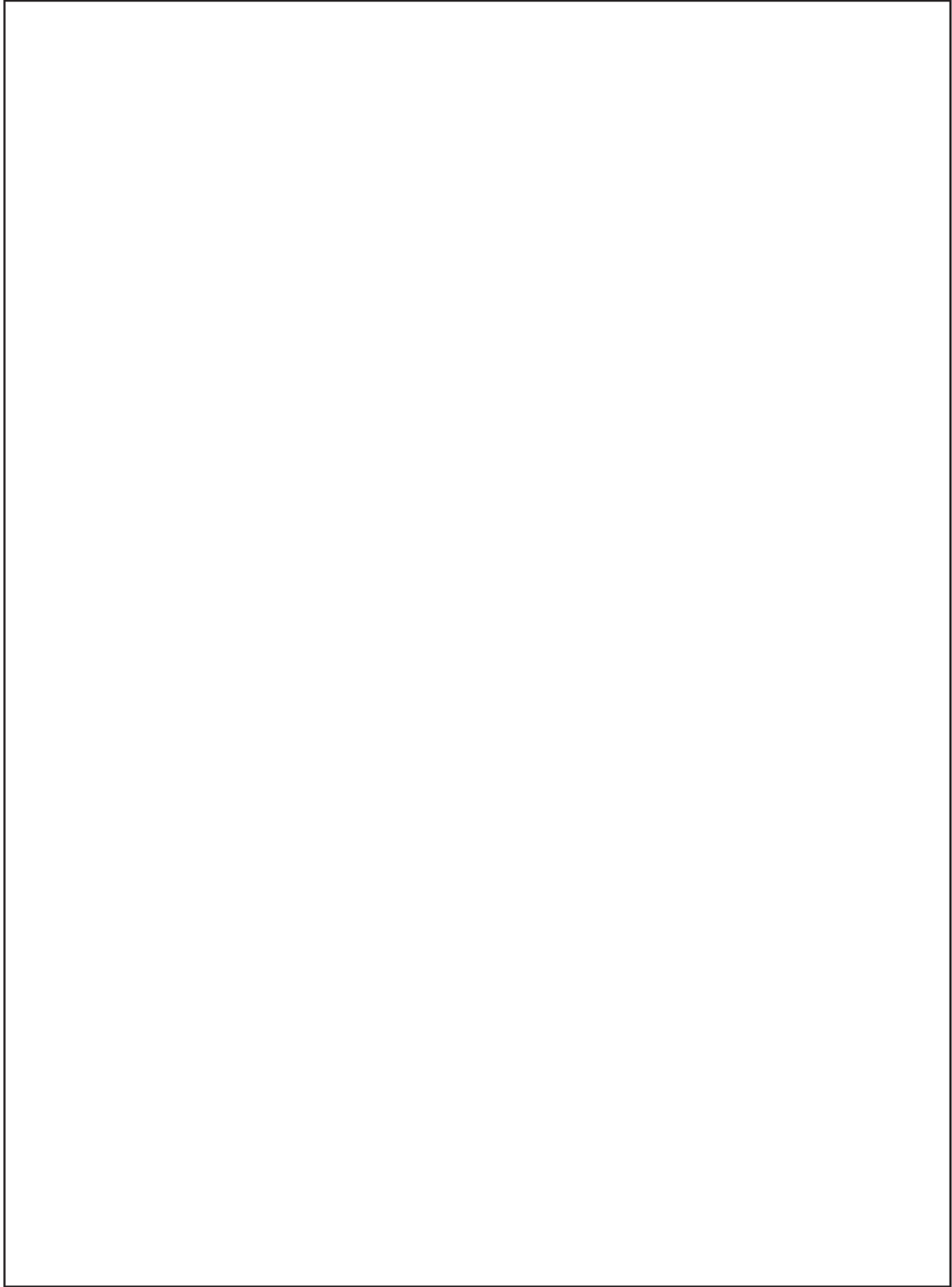


図-1 型輸送容器の概略図

添付書類 1

- ・ 運搬する核燃料物質等に関する説明書

1. 収納する核燃料物質等の仕様

(1) 輸送容器に収納する核燃料物質の仕様 その1

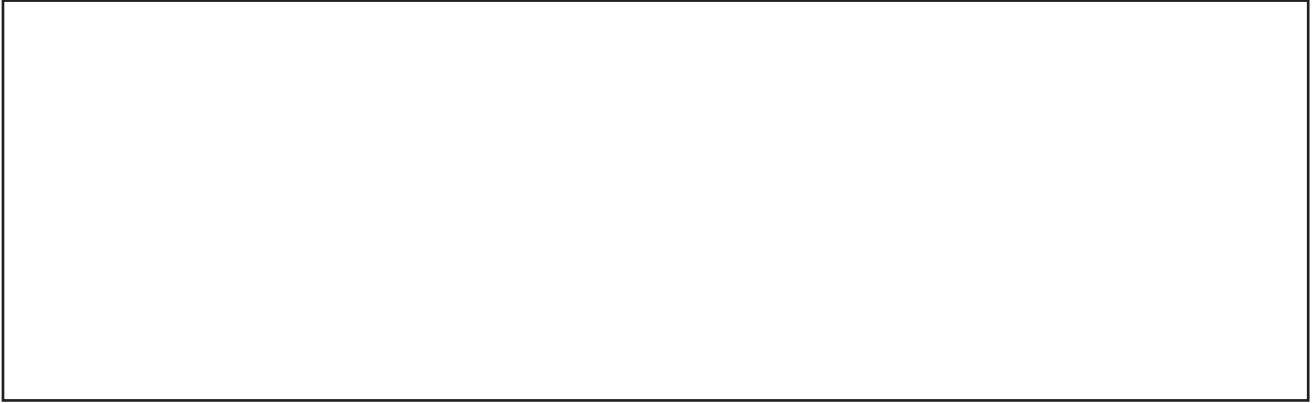
承認容器登録番号	
容器製造番号	
種類	照射済実験用核燃料物質 <input type="text"/>
原子炉	KUMATORI (京都大学核燃料物質使用施設)
燃料形式	
性状	
<input type="text"/> 重量 (g/容器)	
燃料名称	
<input type="text"/> 収納数 <input type="text"/> / 容器)	
U-235 濃縮度 (wt%)	
U-重量 (g/容器)	
U-235 重量 (g/容器)	
放射能の量 (GBq/容器)	
燃焼度 (W)	
発熱量 (%)	
冷却日数	

※：2021年4月時点

(2) 輸送容器に収納する核燃料物質の仕様 その2 (放射能量)

主要核種	放射能の量 (GBq)
U-235	
CS-137	
BA-137M	
Y-90	
SR-90	
SM-151	
U-238	
KR-85	
PM-147	
EU-155	
その他核種	
合計	

(3) 輸送容器に収納する核燃料物質の仕様

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying the upper half of the page. It is positioned directly below the text "(3) 輸送容器に収納する核燃料物質の仕様". This box is intended for a diagram or detailed specifications related to the nuclear fuel material storage container.

2. 仕様の決定方法

U重量については、燃料製作者が重量法で求めた値を用いた。

U-235重量については、燃料製作者が同位体分析法で求めたU-235濃縮度を芯材のU重量に乗じて求めた。

容器のU-235重量は、収納される の値を記載した。

輸送物の濃縮度は、輸送物に収納されている燃料板のU-235重量をU重量で除して求めた。

放射能の量は、これまでの使用実績を元に、計算コードORIGEN-2.2により放射エネルギーを算出し、これを輸送物の重量の値で除した数値を使用した。

収納物の重量は、収納する燃料板の重量を記載した。

燃焼度、発熱量は、これまでの使用実績を元に、計算コードORIGEN-2.2により算出し、これを輸送物の重量の値で除した数値を使用した。冷却日数は、最後の使用日から2021年4月までの日数を記載した。

3. 設計仕様との比較

承認を受けた核燃料輸送物の設計に係る核燃料物質等の設計仕様と収納する核燃料物質等の仕様は下表のとおりであり、いずれも設計仕様を満足している。

(1) 承認容器登録番号：

--

項目	設計仕様	収納物仕様
種類	照射済実験用核燃料物質 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 0 auto; height: 15px;"></div>	
施設	KUMATORI	
燃料形式	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	
性状		
<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 重量 (g)		
<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 収納数 <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 15px; display: inline-block;"></div> /容器)		
U-235 濃縮度 (wt%)		
U-235 重量 (g / 基)		
燃 焼 度 (%)		
冷 却 日 数 (日)		
放 射 能 の 量 (GBq / 容器)		
発 熱 量 (W / 容器)		

- ・ 輸送容器の設計及び核燃料物質等を当該輸送容器に収納した場合の核燃料輸送物の安全性に関する説明書
- ・ 輸送容器の製作の方法に関する説明書
- ・ 輸送容器が輸送容器の設計及び製作の方法に従って製作されていることを示す説明書

輸送容器の設計及び核燃料物質等を当該輸送容器に収納した場合の核燃料輸送物の安全性に関する説明書、輸送容器の製作の方法に関する説明書及び輸送容器が輸送容器の設計及び製作の方法に従って製作されていることを示す説明書については、規則第19条第3項の規定に基づき、容器承認書の写しをもって説明にかえる。

容器承認書
(原規規発第 2204213 号) (写し)

容器承認書

原規規発第 2204213 号
令和 4 年 4 月 21 日

国立大学法人京都大学
学長 湊 長博 殿

原子力規制委

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和 32 年法律第 166 号）
第 59 条第 3 項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和
53 年総理府令第 57 号）第 21 条第 1 項の規定に基づき、令和 4 年 3 月 14 日付け 21
京大施環化第 118 号（以下「申請書」という。）をもって申請のあった輸送容器について
は、同法第 59 条第 1 項に規定する技術上の基準のうち容器に関する基準に適合している
と認められるので、同法第 59 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり承認します。

記

氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名
添付の申請書の写しに記載のとおり

承認容器として使用する期間

ただし、核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和53年総理府令第57号）及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する技術上の基準に係る細目等を定める告示（平成2年科学技術庁告示第5号）（以下「規則等」という。）の改正により、規則等に定める技術上の基準（容器に係るものに限る。）に適合しなくなった場合は失効する。

承認容器登録番号

各容器につき以下のとおり

（注）※は添付の申請書の写しの5に記載された容器製造番号のうち、を除いた部分の数字を指す。例えば、ならば、承認容器登録番号はとなる。

核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則（昭和53年総理府令第57号）第22条第2号から第5号まで、第8号及び第9号に掲げる事項

添付の申請書の写しの1から4まで及び7に記載のとおり

容 器 承 認 申 請 書

21京大施環化第118号

令和4年3月14日

原子力規制委員会 殿

住 所 京都府京都市左京区吉田本町36番地1

氏 名 国立大学法人京都大学

学 長 湊 長 博

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第59条第3項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則第21条第1項の規定により、下記のとおり申請します。

記

1 輸送容器の名称

型

2 輸送容器の外形寸法及び重量

(1) 輸送容器の外形寸法

公称外径
公称高さ

(2) 輸送容器の重量

輸送容器

(3) 核燃料輸送物の総重量

輸送物

(4) 輸送容器の概略を示す図

添付図のとおり

詳細形状は、本核燃料輸送物の核燃料輸送物設計承認申請書（令和3年5月31日付け21京大施環化第41号（令和3年11月15日付け21京大施環化第89号をもって一部補正）に係る別紙の（イ）－第C.1図から（イ）－第D.6図までに示されている。

(5) 輸送容器の主要材料

イ 本体	ステンレス鋼、 <input type="text"/> <input type="text"/>
ロ 外容器蓋	ステンレス鋼、 <input type="text"/> <input type="text"/>
ハ 内容器蓋	ステンレス鋼、 <input type="text"/>
ニ 燃料バスケット	ステンレス鋼、 <input type="text"/>

3 核燃料輸送物の種類

(1) 核燃料輸送物の種類：BU型核分裂性輸送物

(2) 輸送制限個数
(3) 輸送制限配列
(4) 臨界安全指数

4 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量

添付表のとおり

5 承認を受けようとする容器の製造番号その他の当該容器と他の容器を区別するための番号

No.	容器製造番号	No.	容器製造番号

6 承認容器として使用することを予定している期間

--

7 その他特記事項

(1) 核燃料輸送物設計承認番号

--

(2) 輸送容器の保守及び核燃料輸送物の取扱いに関する事項

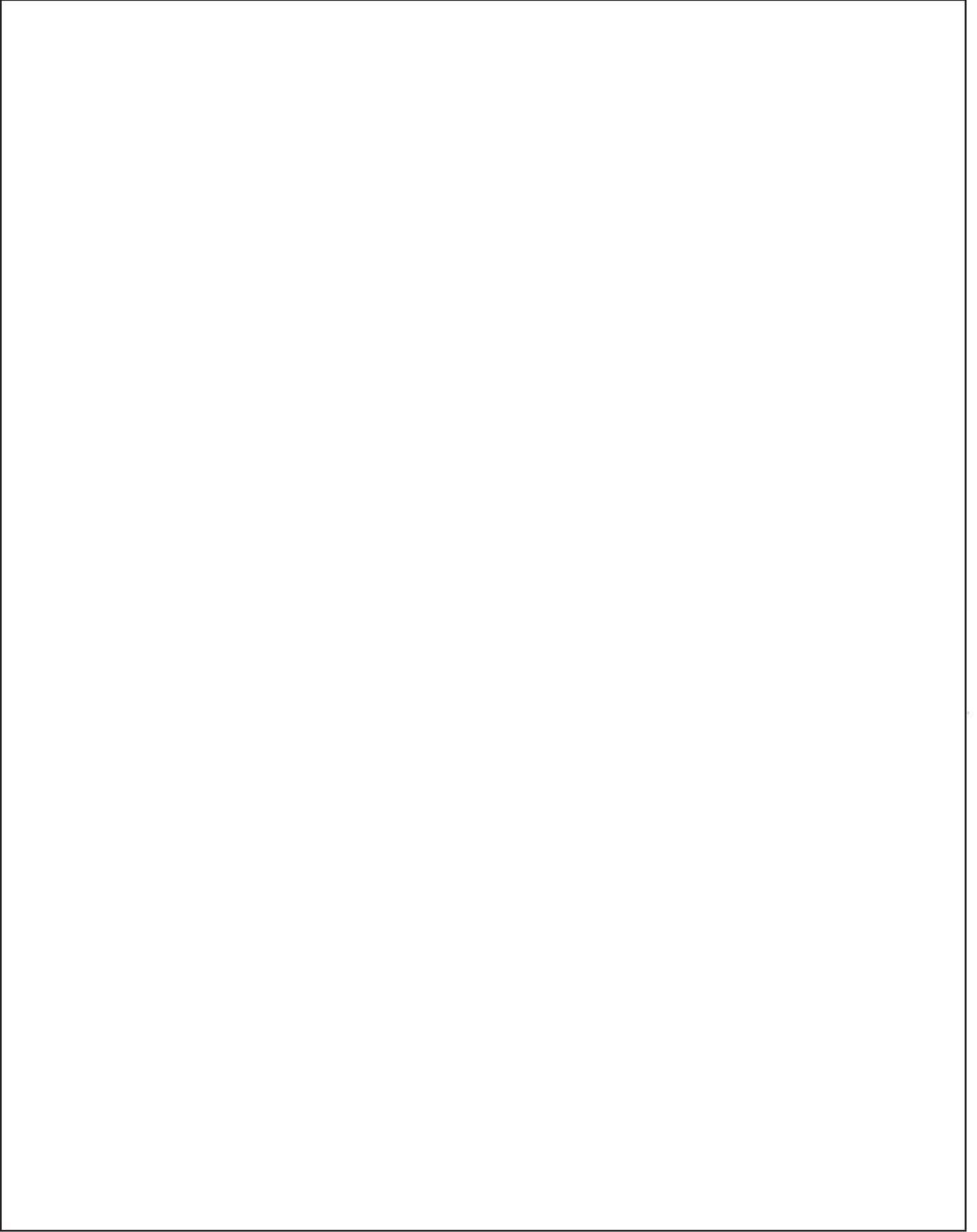
本核燃料輸送物の核燃料輸送物設計承認申請書（令和3年5月31日付け21京大施環化第41号（令和3年11月15日付け21京大施環化第89号をもって一部補正））の11に示す輸送容器の保守及び核燃料輸送物の取扱いに関する事項のとおり。

(3) 承認容器として使用する期間に関連する情報

承認を受けようとする輸送容器の製作時期は表1のとおり。

表1 輸送容器の製作時期

No.	容器製造番号	製作時期	No.	容器製造番号	製作時期



添付図 輸送容器の概略

添付表 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量(1/3)

原子炉		KUR（京都大学研究用原子炉）	
燃料要素			
全装荷数（体／容器）			
種類			
燃料芯材			
性状			
重量	²³⁵ U 重量（g 以下／容器）		
	U 重量（g 以下／容器）		
	²³⁵ U 重量（g 以下／体）		
	U 重量（g 以下／体）		
濃縮度（wt%以下）			
放射能の量	総量（GBq 以下／容器）		
	主要な核種（GBq 以下／容器）		
燃焼度（%以下）			
発熱量（W 以下／容器）			
冷却日数（日）			

・一つの輸送容器に収納することができる核燃料物質は、原子炉毎に、種類及び濃縮度が同じ場合にのみ異なる燃料要素等を混載することができる。

・重量及び発熱量は、収納する燃料要素等毎の重量及び発熱量の最大値を混載本数で案分した値とする。

・収納物表面から 1m 離れた位置での空気吸収線量率は 1Gy/h 以下

添付表 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量 (2/3)

原子炉		KUCA (京都大学臨界実験装置)
燃料要素		
全装荷数 (体/容器)		
種類		
燃料芯材		
性状		
重量	²³⁵ U 重量 (g 以下/容器)	
	U 重量 (g 以下/容器)	
	²³⁵ U 重量 (g 以下/体)	
	U 重量 (g 以下/体)	
濃縮度 (wt% 以下)		
放射能の量	総量 (GBq 以下/容器)	
	主要な核種 (GBq 以下/容器)	
燃焼度 (% 以下)		
発熱量 (W 以下/容器)		
冷却日数 (日)		

・一つの輸送容器に収納することができる核燃料物質は、原子炉毎に、種類及び濃縮度が同じ場合にのみ異なる燃料要素等を混載することができる。

・重量及び発熱量は、収納する燃料要素等毎の重量及び発熱量の最大値を混載本数で案分した値とする。

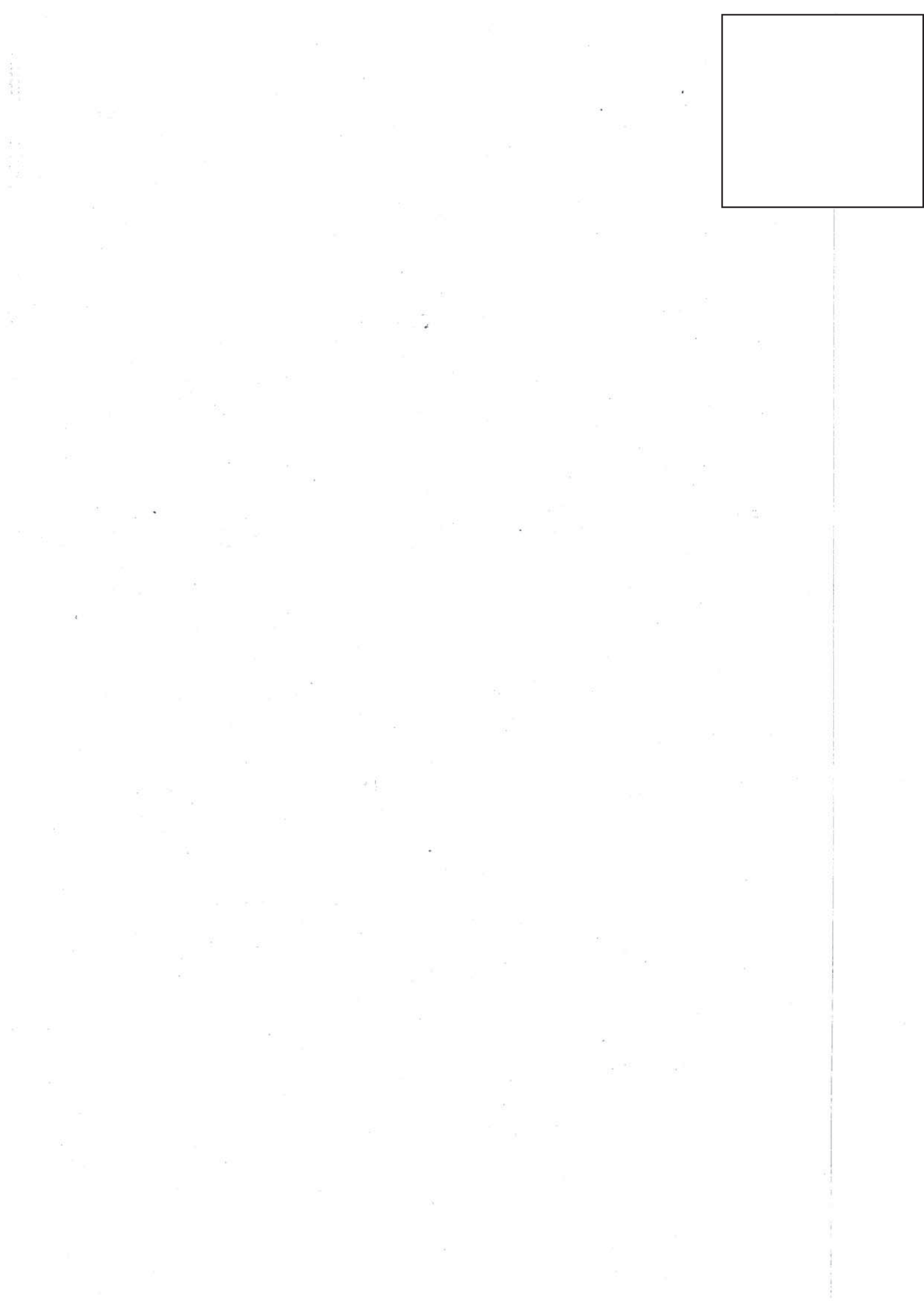
・収納物表面から 1m 離れた位置での空気吸収線量率は 1Gy/h 以下

添付表 収納する核燃料物質等の種類、性状、重量及び放射能の量 (3/3)

項目		仕様		
種類		照射済実験用核燃料物質 <input type="text"/>		
性状				
型式				
寸法 (mm)				
燃料板重量 (g 以下)				
輸送物 1 基あたりの仕様	<input type="text"/> 収納数 (枚以下)			
	²³⁵ U 重量 (kg 以下)			
	ウラン濃縮度 (wt% 以下)			
	放射能の量 (Bq 以下)			
	主要核種の放射能の量 (Bq 以下)			²³⁵ U
	発熱量 (W 以下)			
燃焼度 (%)				
冷却日数 (日以上) ※1				

※1 : 2021年4月時点

- ・ 収納物表面から 1m 離れた位置での空気吸収線量率は 1Gy/h 以下



輸送容器が輸送容器の設計及び製作の方法に適合するよう維持されていることを示す説明書

1. 定期自主検査

本申請に係る輸送容器は、容器製造者により当該核燃料輸送物設計承認書と同一の設計仕様に基づき製作されたものである。国立大学法人京都大学は、これらの輸送容器の貸与を受けて使用するものであるため、当該輸送容器の完成後から容器承認申請時までの間、当該輸送容器が健全に保守されていることについて、容器製造者による定期自主検査記録の確認、又は申請者による定期自主点検を実施し確認する。定期自主点検実施日を以下に、定期自主点検記録を別添3に示す。今回の輸送は、定期自主点検後、初回のものである。

輸送容器番号	実施日
	令和4年3月24日

2. 保管中等の維持管理

当該輸送容器の保管及び取扱いにあたっては以下のように管理し、性能を維持している。

- ① 当該輸送容器の保管にあたっては建家内とし、その性能が損なわれないように保管する。
- ② 当該輸送容器を取扱う場合には、その性能が損なわれないように慎重に取り扱う。
- ③ 当該輸送容器は、1年に1回以上（年間の使用回数が10回を超える場合には、使用回数10回毎に1回以上）、定期自主検査を実施し、その性能を維持する。
- ④ 核燃料輸送物の輸送開始に先立ち発送前検査を実施する。

なお、本申請にて使用する容器の承認容器登録番号と輸送容器番号との対応表を下記に示す。

承認容器登録番号	輸送容器番号

型輸送容器の定期点検記録

京都大学研究用原子炉 (KUR)
自主検査記録

検査責任者	宇根高 博信
検査実施者	
検査年月日	令和 4 年 3 月 24 日
検査対象	
検査場所	京都大学複合原子力科学研究所 臨界集合体棟
検査結果	
輸送容器 <input type="checkbox"/> 判定: <u>良</u>	
詳細は添付書類のとおり	
総合判定: <u>合格</u>	
備考	

[] 型輸送容器定期自主検査記録

検査年月日： 2022年 3月 24日
 検査場所： 京都大学複合原子力科学研究所 臨界集合体棟

検査責任者： 宇根崎 博信
 検査実施者： []

検査項目	検査対象	検査方法	判定基準	承認容器登録番号	結果	判定
外観検査	容器本体 外容器蓋 内容器蓋 燃料バスケット	内外面を目視で検査する。	有害な変形、傷、割れ等のないこと。		良	合格
耐圧検査	内容器本体	耐圧性能に影響する修理等を行った場合、仮の内容器蓋を取り付け内容器本体の漏洩率を加圧漏洩法により検査する。 :検査開始圧力 [] 以上 :検査時間 30分以上 検査終了後、内容器本体内面を目視により検査する。	漏洩率が 1.09×10^{-2} MPa·cm ³ /s 以下であること。 内容器本体内面に有害な変形、傷、割れ等のないこと。			
【注：耐圧性能に影響する修理等を行っていない場合は、結果欄に、「耐圧性能に影響する修理等を行っていないため実施せず」と記載し、判定欄には斜線を施すこと】						

京都大学研究用原子炉 (KUR)
気密漏洩検査記録

検査責任者	宇根崎 博信
検査実施者	
検査年月日	令和 4 年 3 月 24 日
検査対象	
検査場所	京都大学複合原子力科学研究所 臨界集合体棟

対象機器 (製造番号)	検査開始圧力 (MPa・G)	検査終了圧力 (MPa・G)	保持時間 (分)	表面温度 (℃)	漏洩率 (MPa・cm ³ /s)

容器蓋シールの気密漏洩試験孔に適切な加圧配管と圧力計を取り付け、気体にて検査圧力まで徐々に加圧する。検査圧力にて弁を閉止して圧力変化を計測する。加圧直後は圧力変動が大きいので安定後に既定の計測を検査圧力以上で開始する。

<検査条件>

- a. 検査開始圧力 以上
- b. 検査媒体 : 乾燥 N₂ または不活性ガス
- c. 保持時間 : 30 分間以上

漏洩の計算式

$$L = \frac{\Delta P \times V}{T}$$

L : 漏洩率 (MPa・cm³/s)
 ΔP : 圧力降下量 (MPa・G)
 V : シール部容積 (cm³)
 T : 保持時間 (sec)

:	
---	--

型輸送容器保守点検手順要領書

作業期間： 2022年 3月 24日

	型輸送容器)	輸送容器番号
項目	作業及び確認事項 (記載事項は特に指定のない限り輸送容器1基当たりの数)	
準備	外容器に貼付されている輸送用各種パネルをはがす。	
	外容器蓋の [] のボルトを外し、クレーンにより外容器蓋及び平パッキンを取外す。	
	内容器蓋の [] のボルトを外し、クレーンにより内容器蓋を取外す。	
	燃料パッキン内底部にある下部パッキンを取り出す。	
	燃料パッキン上部の [] のボルトを外し、クレーンにより燃料パッキンを取り出す。 (シロガキの損傷の有無を確認すること)	
	外容器本体、外容器蓋、内容器蓋及び燃料パッキン等を洗浄・空拭きする。	
	内容器蓋のオリヅリ2本を外す。	
	内容器蓋のオリヅリ及び溝のゴミを取り除き、空拭きする。	
	外容器蓋及び内容器蓋用ボルトのゴミを取り除く。	
	外観点検	[] 型輸送容器保守点検手順要領書(その1)を実施する。
仕上げ	内容器蓋のオリヅリ及び溝に真空ゴミを取り除く。	
	外容器蓋及び内容器蓋用ボルトにグリスを塗布する。	
準備	クレーンにより燃料パッキンを内容器に収納し、上部 [] のボルトで固定する。	
	クレーンにより内容器蓋を内容器の位置決めピンに合わせ取付け [] のボルトをトルクで締付ける。 (締付けトルク： [])	
性能点検	[] 型輸送容器保守点検手順要領書(その2)を実施する。	
仕上げ	クレーンにより外容器蓋を外容器の位置決めピンに合わせ取り付ける。この時に平パッキンが正しく入っていることを確認する。外容器蓋を [] のボルトで締付け、 [] を使用する。なお、 []	
	外容器全体の外観を確認し、表面を拭きする。	

型輸送容器保守点検手順要領書 (その1)

作業期間： 2022年 3月 24日

型輸送容器)

輸送容器番号

項目	作業方法	作業対象	作業基準	輸送容器番号
外観点検	点検対象容器の外観を目視により点検する。	本体 (内外面)	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。溶融栓に異常のないこと。	
		外容器蓋	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。	
		外容器蓋が 1 外	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。	
		内容器蓋	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。	
		内容器蓋が 1 外	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。	
内容器蓋の	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。			
オイル 2 本	寸法・形状に有害な変形、損傷のないこと。			
燃料バックス	内容器にゆるみなく取付けられていること。			
	締付けを確認する。	燃料バックス		
	輸送容器を吊り上げた状態で、アイズレートの外観を目視により点検する。	アイズレート		

型輸送容器保守点検手順要領書 (その2)

作業期間： 2022年 3月 24日

型輸送容器		確認対象	確認基準	番号	加圧時間	検査開始圧力 (MPa・G)	検査終了圧力 (MPa・G)	表面温度 (°C)	結果
項目	気密漏洩検査 (加圧法により漏洩率を測定する。)	内容 容器蓋の二重Oリング部	漏洩率が $1.09 \times 10^{-4} \text{MPa} \cdot \text{cm}^3/\text{s}$ 以下であること。						
	圧力・ [gauge] 試験時間：30分以上								

輸送容器				輸送容器番号
項目	作業方法	作業対象	作業基準	
外観検査	輸送容器を吊り上げた状態で、アイプレートの外観を目視により点検する。	アイプレート	有害な傷、割れ及び変形等のないこと。	

・核燃料輸送物の発送前の点検に関する説明書

1. 核燃料輸送物の発送前検査に関する説明

発送前検査は、国立大学法人京都大学の検査者が、型核燃料輸送物設計承認申請書「設計承認番号 」ハ章 A 輸送物の取扱い方法に従い、別添 4 のとおり実施する。

2. 発送前検査の実施時期

3. 発送前検査を行う場所

国立大学法人 京都大学 複合原子力科学研究所
大阪府泉南郡熊取町朝代西 2 丁目 1 0 1 0

4. 点検の記録

添付「核燃料輸送物発送前検査成績書」のとおり

核燃料輸送物発送前検査要領

検査項目	検査方法	合格基準
外観検査	本体、内容器蓋及び外容器蓋の外観を目視により検査する。	割れ、異常な傷、変形等がないこと。
吊上検査	輸送物を吊上げた状態で輸送物外観を検査する。	アイプレートに割れ、異常な傷、変形等がないこと。
重量検査	輸送物の総重量を検査する。	重量が [] 以下であること。
表面密度検査	スミヤ法等により輸送物の表面密度を検査する。	表面密度は α 線を放出する放射性物質については $0.4\text{Bq}/\text{cm}^2$ 以下、 α 線を放出しない放射性物質については $4\text{Bq}/\text{cm}^2$ 以下であること。
線量当量率検査	燃料要素を装荷した状態で、 γ 線及び中性子線量当量率を測定する。	γ 線及び中性子線量当量率の合計が、輸送物の表面で $2\text{mSv}/\text{h}$ 以下、輸送物表面より 1m 離れた位置で $100\mu\text{Sv}/\text{h}$ 以下であること。
未臨界検査	燃料バスケットの外観を目視により検査する。	1. 燃料バスケットが所定の位置に取付けられていること。 2. 割れ、異常な傷、変形等がないこと。
収納物検査	種類、濃縮度、収納量及び外観並びに表面密度を検査する。	1. 種類 設計承認条件のとおりであること。 2. 濃縮度及び収納量 設計承認条件のとおりであること。 3. 外観：異常のないこと。 4. 表面密度： α 線を放出する放射性物質が $0.056\text{Bq}/\text{cm}^2$ 以下であること。
気密漏えい検査	内容器蓋シール部に [] の空気圧を30分間加え、圧力降下量により漏えい率を検出する。	漏えい率が、 $1.09 \times 10^{-2} \text{MPa} \cdot \text{cm}^3/\text{s}$ を超えないこと。
圧力測定検査	収納物から発生する崩壊熱は微少であり、容器温度は周囲温度と同一となる。そのため、本検査は実施しない。	
温度測定検査	収納物から発生する崩壊熱は微少であり、容器内部は常圧であるため、容器内部のからの圧力は周囲圧力と同一となる。そのため、本検査は実施しない。	

発送前検査合格証

第2022-02号

実験用核燃料部長 殿

[実験用核燃料 (KUMATORI)] について、 付けで申請のありました検査受検計画書審査願 (受付番号: 第2022-02) をもとに、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第59条第2項及び核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則第19条第1項の規定に基づき申請する車両運搬確認申請に添付する核燃料輸送物の発送前の点検に関する説明書に基づき実施する発送前検査を行った結果、当該検査対象は、同規則に定める核燃料輸送物に関する技術基準に適合していると認められるので合格とします。



京都大学複合原子力科学研究所 検査小委員会

委員長(署名): 三澤 毅

--

検査小委員会 委員長 殿

検査結果報告書

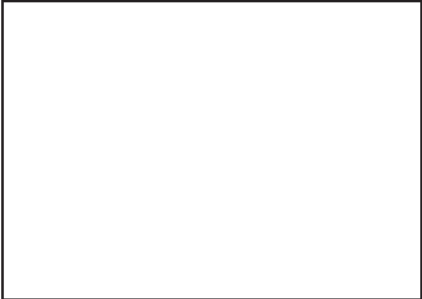
検査責任者

署名 宇根崎 博信

下記のとおり検査結果を報告します。

検査の対象	1. 特別核燃料貯蔵室 (KUFFS) 2. 実験用核燃料 (KUMATORI) 3. その他 ()
申請受付 No.	2022 - 02
検査結果(合否)	合格
検査結果判定日	
特記事項	特になし

核燃料輸送物発送前検査成績書

申請受付 No.	2022-02		
検査場所	国立大学法人 京都大学 複合原子力科学研究所 大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1010		
検査区分	発送前検査		
検査対象設備及び員数 容器製造番号			
検査項目	検査年月日	結果	摘要
(発検 01) 外観検査 (発検 02) 気密漏えい検査 (発検 03) 線量当量率検査 (発検 04) 未臨界検査 (発検 05) 重量検査 (発検 06) 収納物検査 (発検 07) 表面密度検査 (発検 08) 吊上検査 (発検 A1) 封印検査		良	
判定	合格		
検査責任者	国立大学法人 京都大学 複合原子力科学研究所 核燃料管理室長 宇根崎 博信		
備考	令和4年4月21日付け原規規発第 2204213 号をもって承認された容器承認書を含めて合否判定を実施した。		

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 01）

申請受付 No.	2022-02				
検査項目	外観検査				
検査対象物					
検査年月日					
検査責任者					
検査者					
保守担当者					
1. 検査結果					
	容器製造番号	検査 実施日	検査 結果		
<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table>					
2. 判定					
合格					
備考					

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 01）

申請受付 No.	2022-02	
検査年月日		
検査責任者		
検査者		
保守担当者		
検査対象物		
検査項目	外 観 検 査	
検査方法	本体、内容器蓋及び外容器蓋の外観を目視により検査する。	
判定基準	機能上、有害な傷、割れ等がなく、形状に異常な欠陥がないこと。	
1. 検査記録		
	容器製造番号	検査 実施日
		検査 結果
2. 判定		
合 格		
備 考		

検査前確認事項検査項目：外観検査

容器製造 番号	検査実施日	検査対象物が 準備されている	図面が準備 されている	結果	検査者

外観検査 記録

容器製造 番号	検査実施日	有害な傷、 割れ等の有無	形状の異常な欠 陥の有無	検査結果	検査者

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 02）

申請受付 No.	2022-02							
検査項目	気密漏えい検査							
検査対象物								
検査年月日								
検査責任者								
検査者								
保守担当者								
1. 検査結果			<table border="1"> <thead> <tr> <th>容器製造番号</th> <th>検査 実施日</th> <th>検査 結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 30px;"></td> </tr> </tbody> </table>		容器製造番号	検査 実施日	検査 結果	
容器製造番号	検査 実施日	検査 結果						
2. 判定	<p>合格</p>							
備考								

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 02）

申請受付 No.	2022-02		
検査年月日			
検査責任者			
検査者			
保守担当者			
検査対象物			
検査項目	気密漏えい検査		
検査方法	収納容器シール部に <input type="text"/> 以上の空気圧を 30 分間以上加え、圧力降下法により漏えい率を測定する。		
判定基準	漏えい率が 1.09×10^{-2} MPa・cm ³ /s 以下であること。		
1. 検査記録			
容器製造番号	検査実施日	漏えい率 (std-cm ³ /s)	検査結果
<input type="text"/>			
2. 判定			
合格			
3. 測定器			
圧力計：	<input type="text"/>		
校正年月日：令和 3 年 8 月 20 日 有効期限：令和 4 年 8 月 19 日			
トルクレンチ：	<input type="text"/>		
校正年月日：令和 3 年 8 月 20 日 有効期限：令和 4 年 8 月 19 日			
備考	<input type="text"/>		

検査前確認事項検査項目：気密漏えい検査

容器製造 番号	検査実施日	検査対象物が 準備されている	測定器の 記録確認	結果	検査者

気密漏えい検査 記録



核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 03）

申請受付 No.	2022-02	
検査項目	線量当量率検査	
検査対象物		
検査年月日		
検査責任者		
検査者		
保守担当者		
1. 検査結果		
	容器製造番号	検査 実施日
		検査 結果
2. 判定		
合格		
備考		

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 03）

申請受付 No.	2022-02					
検査年月日						
検査責任者						
検査者						
保守担当者						
検査対象物						
検査項目	線量当量率検査					
検査方法	収納物を収納した状態で、輸送物の表面及び表面より 1 m 離れた位置におけるガンマ線量当量率及び中性子線量当量率をサーベイメーターで検査する。					
判定基準	ガンマ線量当量率及び中性子線量当量率の合計が以下の基準を満足すること。 表面：2 mSv/h 以下 表面から 1 m の距離：100 μ Sv/h 以下					
1. 検査記録						
容器製造番号	検査実施日	測定箇所	ガンマ線 (μ Sv/h)	中性子線 (μ Sv/h)	合計値 (μ Sv/h)	検査結果
2. 判定						
合格						
3. 測定器						
γ 線： <u>TCS-1172</u> （製造番号：GR00117318、管理番号 2701）						
校正年月日： 令和 3年 8月 2日 有効期限：校正日より 18カ月						
中性子線： <u>TPS-1451</u> （製造番号：205X8329、管理番号 4510）						
校正年月日： 令和 3年 7月 19日 有効期限：校正日より 18カ月						
直尺： <u>1000mm 直尺</u> （管理番号：臨・校正-6）						
校正年月日： 令和 4年 3月 15日 有効期限：校正日より 37カ月						
備考						

検査前確認事項検査項目：線量当量率検査

容器製造 番号	検査実施日	収納物が収納された 検査対象物が 準備されている	測定器の 記録確認	結果	検査者

線量当量率検査 記録

別紙のとおり

輸送物発送前検査 (線量当量率検査) 記録 1

線量当量率 [μ Sv/h] *											
Y 線											
輸送容器製造番号	輸送物表面			輸送物表面より 1 m			輸送物表面より 0.3 m			別要求による測定	
	側面部			側面部			側面部			側面部	
	①上部	②0°	③90°	④180°	⑤270°	⑥底面部	max	①上部	②0°	③90°	④180°
											⑤270°
基準値			2 [mSv/h]以下			100 [μ Sv/h]以下					

使用測定器 : NaIサーベイメータ
 型式 : TCS-1172
 製造番号 : GR00117318 (検出器 GR00095218)
 管理番号 : 2701
 校正定数 : 1.0

*輸送物表面及び輸送物表面より 1 [m]でのNaIサーベイメータの指示値にNaIサーベイメータの校正定数を乗じた値を記入する。

輸送物発前検査 (線量当量率検査) 記録 2

線量当量率 [$\mu\text{Sv/h}$] *											
中性子線											
輸送容器製造番号	輸送物表面			輸送物表面より 1 m			輸送物表面より 0.3 m			別要求による測定	
	側面部			側面部			側面部				
	①上部	②0°	③90°	④180°	⑤270°	①上部	②0°	③90°	④180°	⑤270°	⑥底面部
						⑥底面部					
基準値						2 [mSv/h]以下					
						100 [$\mu\text{Sv/h}$]以下					

使用測定器 : 中性子サーベイメータ
 型式 : TPS-1451
 製造番号 : 205X8329
 管理番号 : 4510
 校正定数 : 1.2

* 輸送物表面及び輸送物表面より 1 [m]での中性子サーベイメータの指示値に中性子サーベイメータの校正定数を乗じた値が0.1 [$\mu\text{Sv/h}$]未満の場合は「<0.1」と記入し、指示値に校正定数を乗じた値が0.1 [$\mu\text{Sv/h}$]以上の場合はその値を記入する。

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 04）

申請受付 No.	2022-02		
検査項目	未臨界検査		
検査対象物			
検査年月日			
検査責任者			
検査者			
保守担当者			
1. 検査結果			
	容器製造番号	検査 実施日	検査 結果
2. 判定			
合格			
備考			

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 04）

申請受付 No.	2022-02						
検査年月日							
検査責任者							
検査者							
保守担当者							
検査対象物							
検査項目	未 臨 界 検 査						
検査方法	①燃料バスケットの外観を目視により検査する。 ②燃料バケットが容器本体に取り付けられ、 <input type="checkbox"/> のボルトにより固定されていることを確認する。（本手順での確認を「所定の位置に取り付けられていること」とする。）						
判定基準	① 燃料バケットが所定の位置に取付けられていること。 ② 機能上有害な傷、割れ等がなく、形状に異常な欠陥がないこと。						
1. 検査記録							
<table border="1"><thead><tr><th>容器製造番号</th><th>検査 実施日</th><th>検査 結果</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="3" style="height: 50px;"></td></tr></tbody></table>		容器製造番号	検査 実施日	検査 結果			
容器製造番号	検査 実施日	検査 結果					
2. 判定							
合 格							
備 考							

検査前確認事項

検査項目：未臨界検査

容器製造 番号	検査実施日	検査対象物が 準備されている	図面が準備 されている	結果	検査者

未臨界検査 記録

容器製造 番号	検査 実施日	有害な傷、 割れ等の 有無	形状の異常 な欠陥の 有無	バスケットが 所定の位置に 取り付けられ ていること	検査結果	検査者

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 05）

申請受付 No.	2022-02							
検査項目	重量検査							
検査対象物								
検査年月日								
検査責任者								
検査者								
保守担当者								
1. 検査結果			<table border="1"> <thead> <tr> <th>容器製造番号</th> <th>検査 実施日</th> <th>検査 結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table>		容器製造番号	検査 実施日	検査 結果	
容器製造番号	検査 実施日	検査 結果						
2. 判定	合格							
備考								

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 05）

申請受付 No.	2022-02		
検査年月日			
検査責任者			
検査者			
保守担当者			
検査対象物			
検査項目	重量検査		
検査方法	輸送物の総重量を検査する。		
判定基準	重量が <input type="text"/> 以下であること。		
1. 検査記録			
容器製造番号	検査実施日	総重量 (kg)	検査結果
2. 判定			
合格			
3. 測定器			
吊秤： <input type="text"/>			
校正年月日：令和 3年 12月 9日 有効期限：令和 5年 1月 9日			
備考			

検査前確認事項

検査項目：重量検査

容器製造 番号	検査実施日	収納物が収納 された検査対象物 が準備されている	測定器の校正 記録の確認	結果	検査者

重量検査 記録

容器製造 番号	検査実施日	総重量 (kg)	検査者

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 06）

申請受付 No.	2022-02						
検査項目	収納物検査						
検査対象物							
検査年月日							
検査責任者							
検査者							
保守担当者							
1. 検査結果							
	<table border="1"><thead><tr><th>容器製造番号</th><th>検査 実施日</th><th>検査 結果</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="3" style="height: 40px;"></td></tr></tbody></table>	容器製造番号	検査 実施日	検査 結果			
容器製造番号	検査 実施日	検査 結果					
2. 判定	合格						
備考	令和4年4月21日付け原規規発第 2204213 号をもって承認された容器承認書を含めて合否判定を実施した。						

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 06）



申請受付 No.	2022-02					
検査年月日						
検査責任者						
検査者						
保守担当者						
検査対象物						
検査項目	収 納 物 検 査					
検査方法	収納物の種類、濃縮度、収納量、外観及び表面密度を検査する。					
判定基準	1. 種類： <input type="text"/> 2. 濃縮度、収納量 濃縮度 (%) <input type="text"/> 以下、 <input type="text"/> 重量： <input type="text"/> 以下 ²³⁵ U 重量： <input type="text"/> 以下、収納枚数： <input type="text"/> 以下 3. 外観：収納物の外観に、機能上、異常な変形又は破損がないこと。 4. 表面密度：α線を放出する放射性物質が 0.056Bq/cm ² 以下であること。					
1. 検査記録						
容器製造番号	検査実施日	種類	濃縮度、 収納量	外観	表面密 度	検査 結果
2. 判定						
合 格						
3. 測定器						
電子天秤： <u>UW6200H (D447861129)</u> 校正年月日：令和 3 年 9 月 6 日 有効期限：令和 4 年 10 月 6 日						
備 考	当該輸送物には、事業所外運搬規則第 4 条第 10 号に規定される核燃料物質等の使用等に必要な書類その他の物品以外のもは収納していない。 令和 4 年 4 月 21 日付け原規規発第 2204213 号をもって承認された容器承認書を含めて合否判定を実施した。					

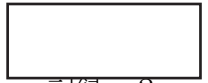


記録—1

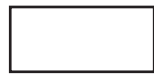
検査前確認事項

検査項目：収納物検査

容器製造 番号	検査実施日	検査対象物 が準備され ている	測定器の校 正記録の 確認	収納物情報が 記載された 記録の準備	結果	検査者



収納物検査 記録



収納物検査 記録

容器製造 番号	検査実施日	外運搬規則第4条第10号に規定される核燃料物質等の使用等に必要書類 その他の物品以外のものを 収納していないかどうか	結果	検査者

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 07）

申請受付 No.	2022-02		
検査項目	表面密度検査		
検査対象物			
検査年月日			
検査責任者			
検査者			
保守担当者			
1. 検査結果			
	容器製造番号	検査 実施日	検査 結果
2. 判定			
合格			
備考			

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 07）

申請受付 No.	2022-02			
検査年月日				
検査責任者				
検査者				
保守担当者				
検査対象物				
検査項目	表面密度検査			
検査方法	スミヤ法により輸送物表面の放射性物質の密度を測定する。			
判定基準	表面密度が以下の基準を満足すること。 アルファ線を放出する放射性物質： 0.4 Bq/cm ² を超えないこと。 アルファ線を放出しない放射性物質： 4 Bq/cm ² を超えないこと。			
1. 検査記録				
容器製造番号	検査 実施日	表面密度 (Bq/cm ²)		検査結果
		α線	β (γ)線	
2. 判定				
合格				
3. 測定器				
α線： <u>TCS-1362</u> （製造番号：GR00129019、管理番号 5602）				
校正年月日：令和 3年 8月 2日 有効期限：校正日より18カ月				
β (γ)線： <u>TCS-1362</u> （製造番号：GR00129019、管理番号 5602）				
校正年月日：令和 3年 8月 2日 有効期限：校正日より18カ月				
備考				

検査前確認事項

検査項目：表面密度検査

容器製造 番号	検査実施日	収納物が収納された 検査対象物が 準備されている	測定器の 記録確認	結果	検査者

表面密度検査 記録

別紙のとおり

輸送物表面発生前検査（表面密度検査）記録

輸送容器 製造番号	表面密度[Bq/cm ²]										検査日	検査者氏名
	α線					β線						
	①上部	②0°	③90°	④180°	⑤270°	⑥底面部	①上部	②0°	③90°	④180°		

	α線										β線									
使用測定器	α/βサーベイメータ										α/βサーベイメータ									
型式	TCS-1362										TCS-1362									
製造番号	GR00129019(検出器GR20145319)										GR00129019(検出器GR20145319)									
管理番号	5602										5602									
B.G.	1 [cpm]										351 [cpm]									
換算定数	1.6×10^{-2} [Bq/cm ² /cpm]										7.2×10^{-2} [Bq/cm ² /cpm]									
検出限界値	5.5×10^0 [cpm]										5.5×10^1 [cpm]									
基準値	8.8×10^{-2} [Bq/cm ²]										4.0×10^{-1} [Bq/cm ²]									
	0.4[Bq/cm ²]以下										4[Bq/cm ²]以下									

* α/βサーベイメータの指示値[cpm]からB.G.[cpm]を差し引いた値が検出限界値[cpm]未満の場合、「ND」と記入する。検出限界値以上の場合は、サーベイメータの指示値からBGを差し引いた値に換算定数を乗じた値を記入する。

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 08）

申請受付 No.	2022-02	
検査項目	吊上検査	
検査対象物		
検査年月日		
検査責任者		
検査者		
保守担当者		
1. 検査結果		
	容器製造番号	検査 実施日
		検査 結果
2. 判定		
合格		
備考		

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 08）

申請受付 No.	2022-02		
検査年月日			
検査責任者			
検査者			
保守担当者			
検査対象物			
検査項目	吊上検査		
検査方法	輸送物を吊上げた状態で輸送物外観を検査する。		
判定基準	アイプレートに機能上有害な異常な傷、割れ、変形等がないこと。		
1. 検査記録			
	容器製造番号	検査 実施日	検査 結果
<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>			
2. 判定			
<p style="font-size: 24px; margin: 0;">合 格</p>			
備考			

検査前確認事項

検査項目：吊上検査

容器製造 番号	検査実施日	収納物が収納 された検査対象物 が準備されている	吊上具準備の 確認	結果	検査者

吊上検査 記録

容器製造 番号	検査実施日	アイプレートに機能 上有害な異常な傷、 割れ、変形等がない こと。	検査者

核燃料輸送物発送前検査成績書（発検 A1）



申請受付 No.	2022-02	
検査項目		
検査対象物		
検査年月日		
検査責任者		
検査者		
保守担当者		
1. 検査結果		
	容器製造番号	検査 実施日
		検査 結果
2. 判定		
合格		
備考		

核燃料輸送物発送前検査記録（発検 A1）



申請受付 No.	2022-02							
検査年月日	令和 4 年 3 月 24 日							
検査責任者								
検査者								
保守担当者								
検査対象物								
検査項目								
検査方法								
判定基準								
<p>1. 検査記録</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">容器製造番号</th> <th style="width: 20%;">検査 実施日</th> <th style="width: 20%;">検査 結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 判定</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">合 格</p>			容器製造番号	検査 実施日	検査 結果			
容器製造番号	検査 実施日	検査 結果						
備考								

検査前確認事項

検査項目：

容器製造 番号	検査実施日	全ての検査を 終了した検査 対象物が準備 されている	図面が準備 されている	結果	検査者
------------	-------	-------------------------------------	----------------	----	-----



記録

容器製造 番号	検査実施日	検査結果	検査者



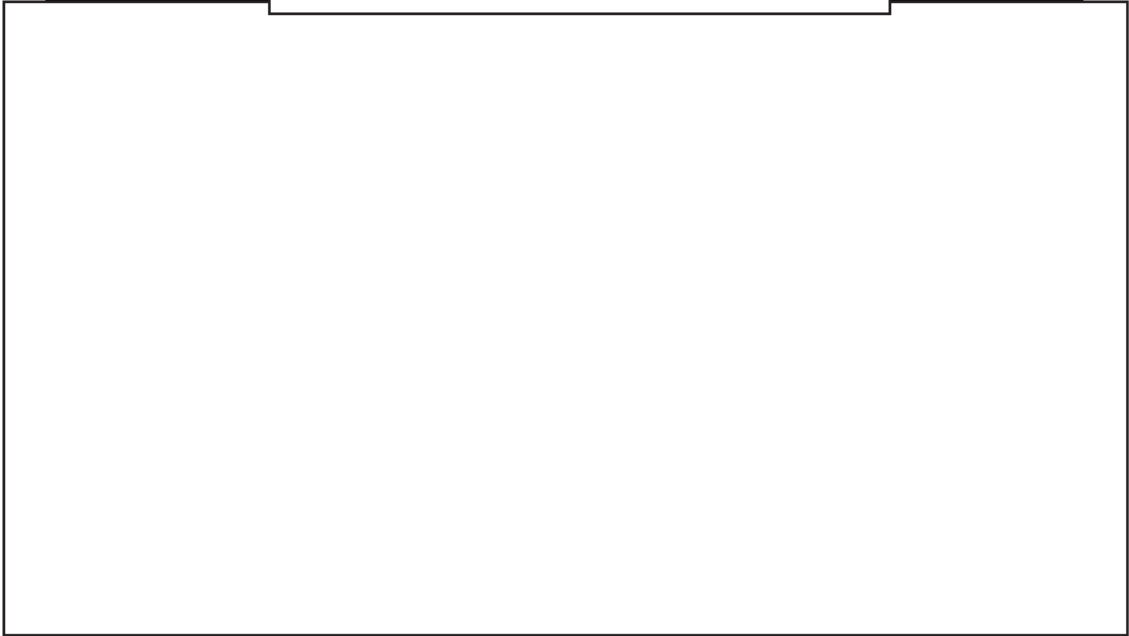
一覽



容器製造
番号



KURNS



- ・核燃料物質等の運搬に係る品質管理の方法等に関する説明書

1. 品質マネジメントの基本方針

本品質マネジメントの基本方針は、「原子力発電所における安全のための品質保証規定(JEAC4111-2009)」を参考に品質保証活動の要求事項を定めたものである。

A. 品質マネジメントシステム

A.1 一般要求事項

(1) 京都大学複合原子力科学研究所（以下「研究所」という。）は、法令に定める技術上の基準並びに運搬に関する確認の申請または容器承認の申請書に示された設計仕様及び製作方法に適合するため、輸送容器の設計、製作、取扱い、保守及び輸送並びに輸送容器の取扱い、保守及び輸送に関連する原子炉施設（以下「輸送容器等」という。）に係る品質マネジメントシステムを確立し、実施し、かつ、維持する。また、この品質マネジメントシステムはマネジメントレビューを通して、継続的に改善する。

(2) 研究所は、次の事項を実施する。

- a) 品質マネジメントシステムに必要なプロセスの内容（当該プロセスにより達成される結果を含む。）を明らかにするとともに、当該プロセスのそれぞれについてどのように適用されるかについて識別できるようにすること。
- b) プロセスの順序及び相互の関係を明確にすること。
- c) プロセスの実施及び管理の実効性の確保に必要な判定基準及び方法を明確にすること。
- d) プロセスの実施並びに監視及び測定（以下「監視測定」という。）に必要な資源及び情報が利用できる体制を確保すること。
- e) プロセスを監視測定し、及び分析すること。ただし、測定することが困難な場合は、測定することを要しない。
- f) プロセスについて、第一号の結果を得るため、及び実効性を維持するために、所要の措置を講ずること。
- g) 品質保証の実施に係るプロセス及び組織を品質マネジメントシステムと整合的なものとする。
- h) 社会科学及び行動科学の知見を踏まえて、保安活動を促進すること。

A.2 文書化に関する要求事項

A.2.1 一般

研究所は、A.1の規定により品質マネジメントシステムを確立するために、次に掲げる文書を作成し、当該文書に規定する事項を実施する。

- a) 品質方針表明書及び品質目標表明書
- b) 品質マネジメントシステムを規定する文書（品質マネジメント計画書）
- c) プロセスについての実効性のある計画的な実施及び管理がなされるようにするために必要な文書
- d) 品質保証計画書に規定する手順書及び記録

A.2.2 文書管理

(1) 研究所は、品質保証計画書に規定する文書その他品質マネジメントシステムに必要な文書（記録を除く。以下「品質マネジメント文書」という。）を管理する。

(2) 研究所は、次に掲げる業務に必要な管理を定めた手順書を作成する。

- a) 品質マネジメント文書を発行するに当たり、当該文書の妥当性をレビューし、その発行を承認すること。
- b) 品質マネジメント文書について所要のレビューを行い、更新を行うに当たり、その更新を承認すること。
- c) 品質マネジメント文書の変更内容及び最新の改訂状況が識別できるようにすること。
- d) 改訂のあった品質マネジメント文書を使用する場合において、当該文書の適切な改訂版が利用できる体制を確保すること。
- e) 品質マネジメント文書が読みやすく、容易に内容を把握することができる状態にあることを確保すること。
- f) 外部で作成された品質マネジメント文書を識別し、その配付を管理すること。
- g) 廃止した品質マネジメント文書が意図に反して使用されることを防止すること。
この場合において、当該文書を保持するときは、その目的にかかわらず、これを識別すること。

A.2.3 品質記録の管理

- (1) 研究所は、品質保証計画書に規定する記録その他要求事項への適合及び品質マネジメントシステムの実効性のある実施を実証する記録の対象を明らかにするとともに、当該記録を、読みやすく容易に内容を把握することができ、かつ、検索することができるように作成し、これを維持管理する。
- (2) 研究所は、前項の記録の識別、保存、保護、検索、保存期間及び廃棄に関し所要の管理を定めた手順書を作成する。
- (3) 研究所は、輸送容器に係る品質記録について、次の事項を確実にする。
 - a) 品質記録には、容器製造者等から提出される品質記録を含むこと。
 - b) 品質記録の保管期間は、容器承認及び設計承認の有効期間を考慮して定めると。

B. 申請者の責任

B.1 経営者のコミットメント

研究所所長（以下「所長」という。）は、経営責任者として品質マネジメントシステムの確立及び実施並びにその実効性の維持と継続的改善に指導力及び責任を持って関与していることを、次に掲げる業務を行うことによって実証する。

- a) 品質方針を定めること。
- b) 品質目標が定められているようにすること。
- c) 安全文化を醸成するための活動を促進すること。
- d) マネジメントレビューを実施すること。
- e) 資源が利用できる体制を確保すること。
- f) 関係法令を遵守することその他原子力の安全を確保することの重要性を、保安活動を実施する者（以下「部室員」という。）に周知すること。

B.2 責任及び権限

B.2.1 責任及び権限

(1) 体制

本基本方針に係る業務を実施する品質保証組織は、第 B.1 図、第 B.2 図に示す。

(2) 責任及び権限

所長は、経営責任者として各部室及び部室員の責任（保安活動の内容について説明する責任を含む。）及び権限が定められ、文書化され、周知されているようにする。

B.2.2 品質保証責任者

所長は、品質マネジメントシステムを管理監督する責任者（以下「品質保証責任者」という。）を任命し、次に掲げる業務に係る責任及び権限を与える。

- a) プロセスが確立され、実施されるとともに、その実効性が維持されているようにすること。
- b) 品質マネジメントシステムの実施状況及びその改善の必要性について所長に報告すること。

- c) 各部室において、関係法令を遵守することその他原子力の安全を確保することについての認識が向上するようにすること。

B. 2. 3 部室長の責任と権限

所長は、プロセスを管理監督する責任者である各部室の長（以下「部室長」という。）に、次に掲げる業務に係る責任及び権限を与える。

- a) 部室長が管理する個別業務のプロセスが確立され、実施されるとともに、その実効性が維持されているようにすること。
- b) 部室長が管理する個別業務に従事する部室員の個別業務等要求事項についての認識が向上するようにすること。
- c) 部室長が管理する個別業務の実績に関する評価を行うこと。
- d) 安全文化を醸成するための活動を促進すること。

B. 2. 4 内部監査責任者

- (1) 所長は、内部監査責任者を任命する。
- (2) 内部監査責任者は、内部監査に関する業務の責任者として、内部監査の計画及び実施に関する業務を行う。

B. 3 マネジメントレビュー

B. 3. 1 一般

- (1) 所長は、品質マネジメントシステムについて、その妥当性及び実効性の維持を確認するためのレビュー（品質マネジメントシステム、品質方針及び品質目標の改善の余地及び変更の必要性の評価を含む。以下「マネジメントレビュー」という。）を、あらかじめ定めた間隔で行う。
- (2) 研究所は、品質保証責任者にマネジメントレビューの結果の記録を作成させ、これを管理させる。

B. 3. 2 マネジメントレビューへのインプット

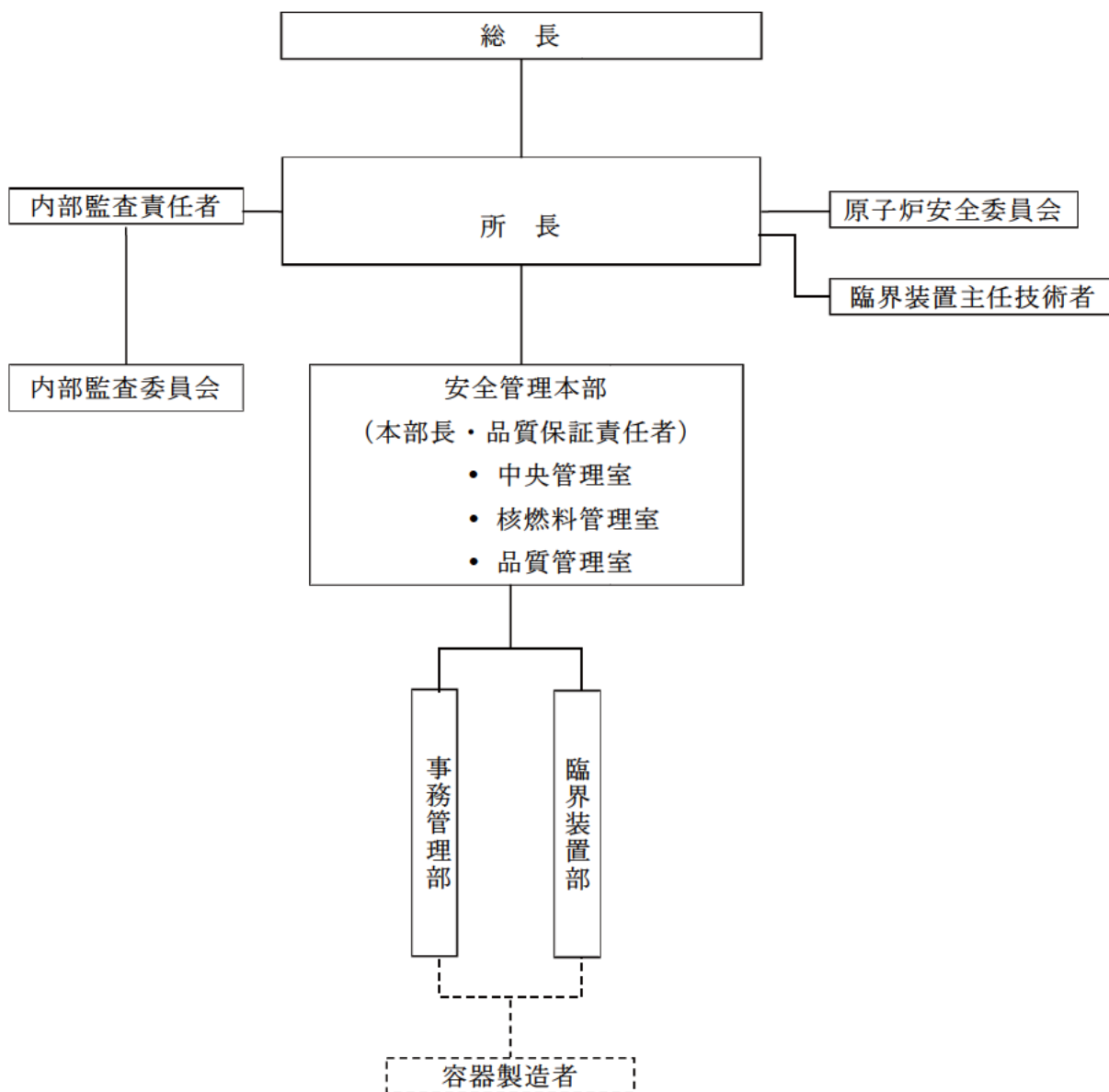
所長は、次に掲げるインプットを元にマネジメントレビューを行う。

- a) 監査の結果
- b) 研究所の外部の者（外部機関、規制官庁、京都大学本部、地域住民、利用者など）からのフィードバック
- c) プロセスの実施状況
- d) 輸送容器等に係る検査の結果
- e) 品質目標の達成状況
- f) 安全文化を醸成するための活動の実施状況
- g) 関係法令の遵守状況
- h) 是正処置（不適合（要求事項に適合しない状態をいう。以下同じ。）に対する再発防止のために行う是正に関する処置をいう。以下同じ。）及び未然防止処置（生じるおそれのある不適合を未然に防止するための処置をいう。以下同じ。）の状況
- i) 従前のマネジメントレビューの結果を受けて講じた措置（フォローアップ）
- j) 品質マネジメントシステムに影響を及ぼすおそれのある変更
- k) 各部室又は部室員からの改善のための提案

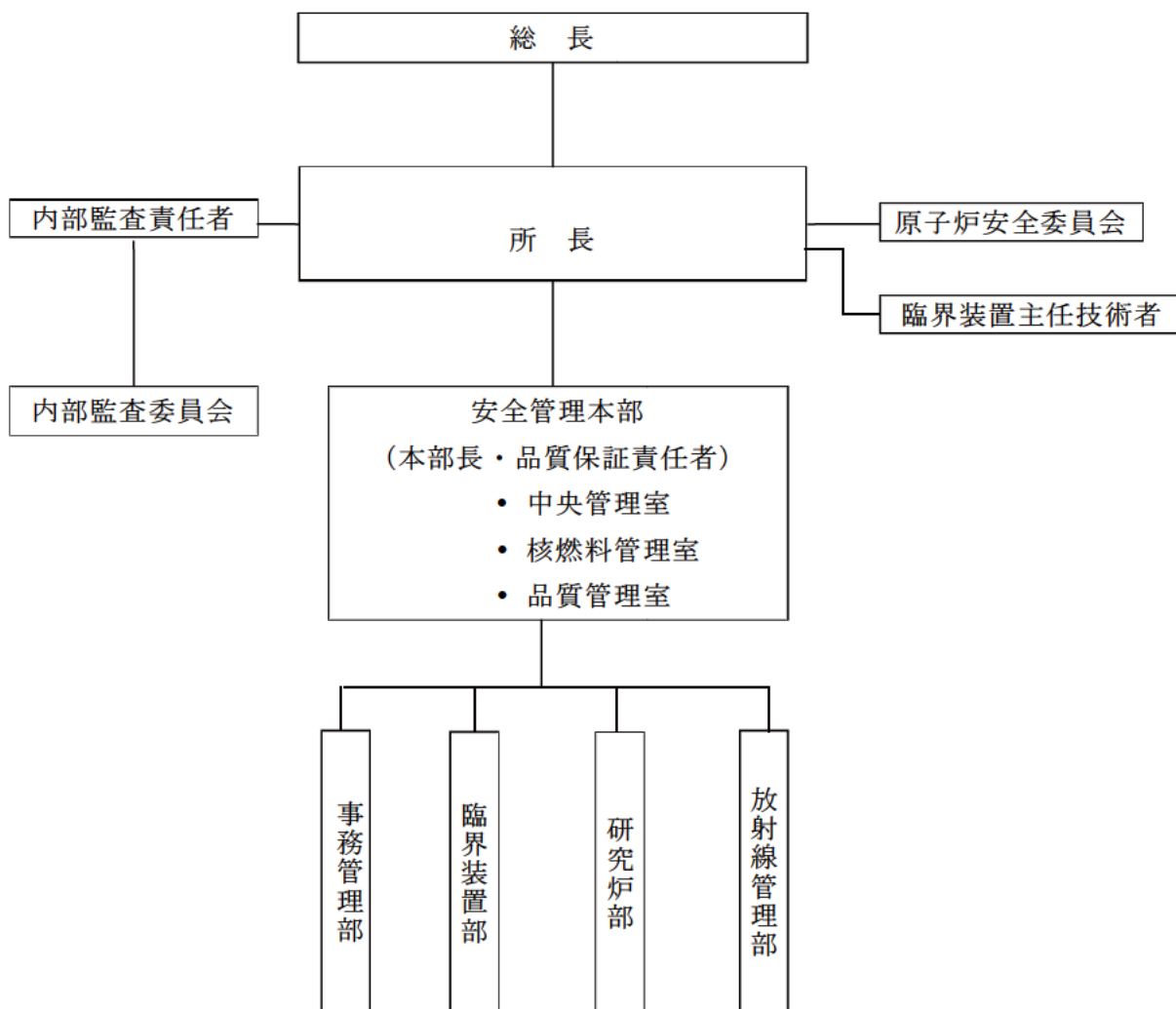
B.3.3 マネジメントレビューからのアウトプット

所長は、マネジメントレビューから次に掲げる事項に係る情報を得て、所要の措置を講じる。

- a) 品質マネジメントシステム及び業務の実効性の維持に必要な改善
- b) 個別業務に関する計画及び個別業務の実施に関連する保安活動の改善
- c) 品質マネジメントシステムの妥当性及び実効性の維持を確保するために必要な資源



第 B.1 図 核燃料輸送物の設計等に係る品質保証組織



第 B.2 図 核燃料輸送物の検査等に係る品質保証組織

C. 教育・訓練

C.1 資源の確保

研究所は、保安のために必要な資源を明確にし、確保する。

C.2 要員の提供

研究所は、部室員に、次に掲げる要件を満たしていることをもってその能力が実証された者を充てる。

- a) 適切な教育訓練を受けていること。
- b) 所要の技能及び経験を有していること。

C.3 教育訓練等

研究所は、次に掲げる業務を行う。

- a) 部室員にどのような能力が必要かを明確にすること。
- b) 部室員の教育訓練の必要性を明らかにすること。
- c) 前号の教育訓練の必要性を満たすために教育訓練その他の措置を講ずること。
- d) 前号の措置の実効性を評価すること。
- e) 部室員が、品質目標の達成に向けて自らの個別業務の関連性及び重要性を認識するとともに、自らの貢献の方途を認識しているようにすること。
- f) 部室員の教育訓練、技能及び経験について適切な記録を作成し、これを管理すること。

D. 設計管理

D.1 個別業務に必要なプロセスの計画

- (1) 研究所は、輸送容器等に係る個別業務に必要なプロセスについて、計画を策定するとともに、確立する。
- (2) 前項の規定により策定された計画（以下「個別業務計画」という。）は、他のプロセスの要求事項と整合的なものとする。
- (3) 研究所は、個別業務計画の策定を行うに当たっては、次に掲げる事項を適切に明確化する。
 - a) 個別業務又は輸送容器等に係る品質目標及び個別業務等要求事項
 - b) 所要のプロセス、品質マネジメント文書及び資源であって、個別業務又は輸送容器等に固有のもの
 - c) 所要の検証、妥当性確認、監視測定並びに検査及び試験（以下「検査試験」という。）であって、当該個別業務又は輸送容器等に固有のもの及び個別業務又は輸送容器等の適否を決定するための基準（以下「適否決定基準」という。）なお、検査にあたっては、別途定める手順書に則り実施し、検査に必要な力量を有する者の中から検査の独立性を確保して任命する。
 - d) 個別業務又は輸送容器等に係るプロセス及びその結果が個別業務等要求事項に適合していることを実証するために必要な記録
 - e) 研究所は、個別業務計画の策定に係るアウトプットを、作業方法に見合う形式によるものとする。

D.2 個別業務等要求事項の明確化

研究所は、次に掲げる事項を個別業務等要求事項として明確にする。

- a) 外部の者が明示してはいないものの、個別業務又は輸送容器等に必要な要求事項であって既知のもの
- b) 当該個別業務や輸送容器等に関する関係法令
- c) その他研究所が必要と判断する要求事項

2. 本申請に係る業務実施状況

核燃料輸送物の運搬に関する確認業務に係る具体的な業務実施状況を表1に示す。技術基準に適合することを確認するための発送前検査は、研究所が別途定める「検査試験の方法に関する手順書」ならびに「核燃料輸送物発送前検査要領書」に基づき、発送前検査を行う者を検査に必要な力量を有する者の中から検査の独立性を確保して人選することにより検査の独立性を確保している。以下に、「検査試験の方法に関する手順書」に記載されている検査の体制に関するものの一部を示す。

表1 核燃料輸送物の運搬に関する確認業務に係る具体的な業務実施状況

分類	実施状況	関連文書
計画	発送前検査を実施する前に、研究所に設置されて検査小委員会に検査受験計画書審査願ならびに検査受験計画書を提出している。	<ul style="list-style-type: none">・検査受験計画書審査願・検査受験計画書
実施	発送前検査において、申請を行う輸送物が規則に定める技術基準に適合することを確認している。	<ul style="list-style-type: none">・核燃料輸送物発送前検査要領書・キャスク収納作業フローチェック・記録シート
評価	保安活動が適切に実施され維持されていることを内部監査等により確認する品質保証体制が確立されている。	<ul style="list-style-type: none">・品質マネジメント計画書
改善	保安活動が適切に実施され維持されていることを内部監査等により確認する品質保証体制が確立されている。	<ul style="list-style-type: none">・品質マネジメント計画書・小委員会における審議の記録

検査の体制

(1) 被検査部室長

検査を受ける部室の長であり、個別業務の主管部室長である。

(2) 設備担当部室

検査対象の設備を保守管理する部室である。その長を設備担当部室長、部室員を設備担当部室員と呼ぶ。

(3) 検査小委員会（以下、小委員会という）

保守担当部室から独立性を持たせた者による検査を行うための組織であり、原子炉安全委員会のもとに設置される。構成員、業務、その他必要な事項は小委員会内規に定める。

(4) 検査責任者

検査の実施を指揮するとともに、検査項目ごとの良否判定をもとに検査の合否判定を行う責任者である。被検査部室長から申請された検査ごとに、部室長又はそれに準ずる力量がある者の中から検査の独立性を確保して小委員会が指名し、小委員会委員長（以下、委員長という）が所長に報告のうえ所長が任命する。

(5) 検査担当者

検査責任者のもとで検査に係る業務を実施する。被検査部室長から申請された検査ごとに、業務履歴等に照らして検査における力量を有すると認められた者の中から、検査の独立性を確保して小委員会が指名し、委員長が所長に報告のうえ所長が任命する。

(6) 検査チーム

検査ごとの検査責任者及び検査担当者で構成され、当該検査に係る業務を行う。検査の判定に当たり、設備担当部及び上司からの影響を受けないよう、当該検査に関して独立した権限を有し、被検査部室に対して下記の事項を求めることができる。

- 1) 保管する帳簿、書類等の提出を求めること。
- 2) 検査の参考となる書類の作成及びその提出を求めること。
- 3) 面接又はその他の方法により説明を求めること。

(7) 検査者

検査項目ごとに実際に検査を実施する者をいい、検査責任者が、検査チームの中から1検査項目当たり2名以上を選ぶ。検査責任者も検査者になることができる。なお、検査者は原子力施設の保安活動に関する知識及び経験を有していなければならないことから、被検査部室の部室員が検査者を兼務することを妨げないが、検査の独立性確保の観点から、自ら保守管理する設備は検査しないこととする。